

<p>文学・哲学・言語</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p>
<p><b>keyword</b></p>	<p>□ 言葉（詩）の音楽性 □ 英米愛モダニズム文学と日本の関係</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 言葉（詩）の音楽</li> <li>■ モダニズム</li> <li>■ エズラ・パウンド</li> <li>■ W.B. イェイツ</li> <li>■ アーネスト・ヘミングウェイ</li> <li>■ 能楽</li> <li>■ 小泉八雲</li> </ul>	<p><b>課題解決に役立つシーズの説明</b></p>
	<p>私の専門領域は、英語で書かれたアメリカとアイルランドの文学である。時代とともに変化する言葉が如何に 20 世紀以後の上記英語圏文学に現れているかを研究しているが、特に二点に集約している。一つは詩であれ戯曲であれ、言葉の生み出す音楽、今一つは西洋と東洋の出会いである。教育面では、経済学部教員として、現代の要請に従って変化した英語、現代を生きるのに必要な形の英語を伝え、世界の人々と課題に取り組める学生を養成し、また、学生たちが人生を異なった切り口で見る助けとして文学を提供している。私が研究対象にしている愛米モダニズム文学者は、日本の文学や芸能との出会いで新しい作品を生んだ。「東洋、日本」という異なる世界が、既存の見方に新境地を開く。他を排除せず、違いを認め、それを自分に取り込むことは、どんな課題解決にも必要な態度である。さらに、変化や新しい切り口は、伝統、既存の文化を深く理解した上で生み出される。これらも学生に伝えたいことである。</p>
<p><b>真鍋 晶子</b> Akiko Manabe</p>	<p>独自の「言葉」により新しい文学を生んだ文学者、なかでもアメリカ出身のエズラ・パウンドとアーネスト・ヘミングウェイ、アイルランドの血をひく W.B. イェイツと小泉八雲が現在興味のある中心にある。パウンドを中心に繋がる芸術家が、急激な変化を遂げた時代を語るその</p>
<p>経済学部 教授</p>	<p>「声」は、時代の特性を表すと同時に、古来の「伝統」を内包し、時空を超えた世界を生み出している。イェイツはパウンドを通じて能楽と出会い、リアリズムや象徴主義では行き詰まりを見せていた劇作に新しい息吹を吹き込んだ。これまで注目されてこなかったヘミングウェイの詩、能楽との出会いで生まれたイェイツの劇、2 人の詩学の根本に関わったパウンド、を総合的に研究している。</p>
<p>【プロフィール】</p>	<p>国内の学会発表に加え、2014 年ヴェネツィアでの国際ヘミングウェイ協会大会で、ヘミングウェイと俳句と狂言について発表したことを機に、2015 年スペイン、サラゴサ大学での日本と個人主義についての学会に招聘されイェイツと狂言について講演。イタリアで開かれた国際パウンド協会の大会で、パウンドのヘミングウェイへの影響を、日本の「間（ま）」と「空（くう）」の観点で切り込み、また、イェイツ生誕 200 年を記してアイルランドで開かれた第一回国際イェイツ協会大会において、「日本とイェイツ」のパネルで、イェイツと狂言について発表。この発表をうけ、フランスの学術誌への寄稿、第一回国際イェイツシンポの基調講演、2018 年 12 月京都での第二回国際イェイツシンポの企画（テーマ「イェイツと笑い」）を依頼された。また、2017 年日愛外交関係樹立 60 周年記念事業のひとつとして、在アイルランド日本大使館、在日アイルランド大使館の支援を受けて、イェイツが狂言として書いたと言ったにも関わらず日本語の狂言として演じられたことのない『猫と月』、および小泉八雲の作品に基づく新作を京都の狂言の名家茂山千五郎家により、アイルランドにおいて上演することを実行委員長として企画、大成功をおさめた。最近では俳優佐野史郎氏、音楽家山本恭司氏、小泉八雲曾孫小泉凡氏による「小泉八雲朗読のしらべ」の公演企画にも関わり、彦根の古刹清涼寺での 2 回の上演を企画するなど、これらモダニズム期の文学者がいかに現代に生きるかを日本の伝統を踏まえた形で実践することも研究の一旦としている。</p>
<p>●専門分野 ・アメリカ文学 ・アイルランド文学</p>	<p>「声」は、時代の特性を表すと同時に、古来の「伝統」を内包し、時空を超えた世界を生み出している。イェイツはパウンドを通じて能楽と出会い、リアリズムや象徴主義では行き詰まりを見せていた劇作に新しい息吹を吹き込んだ。これまで注目されてこなかったヘミングウェイの詩、能楽との出会いで生まれたイェイツの劇、2 人の詩学の根本に関わったパウンド、を総合的に研究している。</p>
<p>【略歴】</p>	<p>国内の学会発表に加え、2014 年ヴェネツィアでの国際ヘミングウェイ協会大会で、ヘミングウェイと俳句と狂言について発表したことを機に、2015 年スペイン、サラゴサ大学での日本と個人主義についての学会に招聘されイェイツと狂言について講演。イタリアで開かれた国際パウンド協会の大会で、パウンドのヘミングウェイへの影響を、日本の「間（ま）」と「空（くう）」の観点で切り込み、また、イェイツ生誕 200 年を記してアイルランドで開かれた第一回国際イェイツ協会大会において、「日本とイェイツ」のパネルで、イェイツと狂言について発表。この発表をうけ、フランスの学術誌への寄稿、第一回国際イェイツシンポの基調講演、2018 年 12 月京都での第二回国際イェイツシンポの企画（テーマ「イェイツと笑い」）を依頼された。また、2017 年日愛外交関係樹立 60 周年記念事業のひとつとして、在アイルランド日本大使館、在日アイルランド大使館の支援を受けて、イェイツが狂言として書いたと言ったにも関わらず日本語の狂言として演じられたことのない『猫と月』、および小泉八雲の作品に基づく新作を京都の狂言の名家茂山千五郎家により、アイルランドにおいて上演することを実行委員長として企画、大成功をおさめた。最近では俳優佐野史郎氏、音楽家山本恭司氏、小泉八雲曾孫小泉凡氏による「小泉八雲朗読のしらべ」の公演企画にも関わり、彦根の古刹清涼寺での 2 回の上演を企画するなど、これらモダニズム期の文学者がいかに現代に生きるかを日本の伝統を踏まえた形で実践することも研究の一旦としている。</p>
<p>1960 年 京都市生まれ</p> <p>1984 年 京都大学文学部卒業</p> <p>1988 年 京都大学大学院 文学研究科修士課程修了</p> <p>1994 年 カリフォルニア州立大学 サンフランシスコ校 修士課程修了</p> <p>1996 年 滋賀大学 経済学部 講師</p> <p>1998 年 同 助教授</p> <p>2005 年 同 教授</p>	<p>国内の学会発表に加え、2014 年ヴェネツィアでの国際ヘミングウェイ協会大会で、ヘミングウェイと俳句と狂言について発表したことを機に、2015 年スペイン、サラゴサ大学での日本と個人主義についての学会に招聘されイェイツと狂言について講演。イタリアで開かれた国際パウンド協会の大会で、パウンドのヘミングウェイへの影響を、日本の「間（ま）」と「空（くう）」の観点で切り込み、また、イェイツ生誕 200 年を記してアイルランドで開かれた第一回国際イェイツ協会大会において、「日本とイェイツ」のパネルで、イェイツと狂言について発表。この発表をうけ、フランスの学術誌への寄稿、第一回国際イェイツシンポの基調講演、2018 年 12 月京都での第二回国際イェイツシンポの企画（テーマ「イェイツと笑い」）を依頼された。また、2017 年日愛外交関係樹立 60 周年記念事業のひとつとして、在アイルランド日本大使館、在日アイルランド大使館の支援を受けて、イェイツが狂言として書いたと言ったにも関わらず日本語の狂言として演じられたことのない『猫と月』、および小泉八雲の作品に基づく新作を京都の狂言の名家茂山千五郎家により、アイルランドにおいて上演することを実行委員長として企画、大成功をおさめた。最近では俳優佐野史郎氏、音楽家山本恭司氏、小泉八雲曾孫小泉凡氏による「小泉八雲朗読のしらべ」の公演企画にも関わり、彦根の古刹清涼寺での 2 回の上演を企画するなど、これらモダニズム期の文学者がいかに現代に生きるかを日本の伝統を踏まえた形で実践することも研究の一旦としている。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ヘミングウェイ協会(委員)</li> <li>・日本イェイツ協会(委員)</li> <li>・IASIL JAPAN(委員)</li> <li>・日本アイルランド協会(事務局 長・理事)</li> <li>・彦根市教育委員会 指定管理者候補者選定委員/事務 点検・評価委員会委員</li> <li>・びわ湖放送番組審議会委員</li> <li>・空の旅人舎代表</li> <li>・2017 年日愛外交樹立 60 周年事 業茂山千五郎家狂言アイルラン ド公演実行委員会委員長</li> </ul>	<p>国内の学会発表に加え、2014 年ヴェネツィアでの国際ヘミングウェイ協会大会で、ヘミングウェイと俳句と狂言について発表したことを機に、2015 年スペイン、サラゴサ大学での日本と個人主義についての学会に招聘されイェイツと狂言について講演。イタリアで開かれた国際パウンド協会の大会で、パウンドのヘミングウェイへの影響を、日本の「間（ま）」と「空（くう）」の観点で切り込み、また、イェイツ生誕 200 年を記してアイルランドで開かれた第一回国際イェイツ協会大会において、「日本とイェイツ」のパネルで、イェイツと狂言について発表。この発表をうけ、フランスの学術誌への寄稿、第一回国際イェイツシンポの基調講演、2018 年 12 月京都での第二回国際イェイツシンポの企画（テーマ「イェイツと笑い」）を依頼された。また、2017 年日愛外交関係樹立 60 周年記念事業のひとつとして、在アイルランド日本大使館、在日アイルランド大使館の支援を受けて、イェイツが狂言として書いたと言ったにも関わらず日本語の狂言として演じられたことのない『猫と月』、および小泉八雲の作品に基づく新作を京都の狂言の名家茂山千五郎家により、アイルランドにおいて上演することを実行委員長として企画、大成功をおさめた。最近では俳優佐野史郎氏、音楽家山本恭司氏、小泉八雲曾孫小泉凡氏による「小泉八雲朗読のしらべ」の公演企画にも関わり、彦根の古刹清涼寺での 2 回の上演を企画するなど、これらモダニズム期の文学者がいかに現代に生きるかを日本の伝統を踏まえた形で実践することも研究の一旦としている。</p>